

そうさ観光物産センター匝りの里で

お待ちしております



本市の観光の拠点施設として整備し、4月にオープンした「そうさ観光物産センター匝りの里」。イベント企画や観光案内から物産品の販売まで、運営に携わる全員が多くのお客さまを迎える取り組みを行っています。

多くの人が訪れる場を目指して

平屋で和風の建物の入り口を入ると、正面の案内窓口では、観光案内を行う「コンシェルジュ」がお出迎え。約158㎡の施設内には、市内の散策スポットなどの見どころを紹介する観光情報コーナーと、新鮮な地元野菜や加工品などの特産品を扱う物産販売コーナーを併設。7月からは、ソフトクリームやクレープなどを提供する軽食コーナーが稼働予定です。

また、建物脇のイベント広場では、時期に合わせたお楽しみイベントを随時開催。市外からの観光客だけでなく、市内の利用者や学生も立ち寄りやすい場

を目指しています。

市民に愛される名称を公募で決定

施設名称は、「匝瑳市に人を呼び、人を迎える、おもてなしの場」となることを目指して、広く募集を行いました。その結果、施設自体を表す名称「そうさ観光物産センター」と、市のイメージを表す名称「匝りの里」のそれぞれを選定し組み合わせ、より市民に愛される名称としました。

心を一つにしてまちづくりに奮闘中

施設の運営は、市民協働のまちづくりや観光振興を目的に、開館に合わせて立ち上げたNP

〇法人「匝瑳市観光物産協会」が担っています。

このNPO法人には、市内外から約100の個人や団体が会員として加入。「心ひとつにおもてなし」を合言葉に、多くのお客さまを迎えるべく、総務・コンシェルジュ部、観光誘致・イベント企画部、物産販売・飲食部、イベント広場部の4部会にそれぞれ分かれ、観光客誘致のための企画・観光案内、物産品の開発・販売、また、これらに関するイベントの開催を行っています。

店内案内

【住所】匝瑳市八日市場1-3
7番地1（JR八日市場駅前）
【営業時間】9時～18時
【定休日】なし
【問い合わせ】
TEL0479・85・5015
FAX0479・85・5016

観光案内所

そうさ観光物産センター
めく
匝りの里



匠瑛の顔を 目指して

NPO法人
匠瑛市観光物産協会

理事長 並木 孝雄 さん

オープンから3か月が経ちました。ハード面でもまだ十分な施設とはいえませんが、この間、会員みんなが心を一つに、当センターを“匠瑛市の顔”にしたいと取り組んできました。まだまだ青虫の状態ですが、立派なチョウとなり飛び立っていけるよう、観光・商業・農業を三本柱として、3年、5年先を見越してみんなで努力していきます。

当センターは本市観光の基地ですが、市内の多くの皆さんにもご来館いただき、本市の良さを再確認いただければと思います。ぜひお越しください。



① 地元産品が勢ぞろい「物産販売コーナー」② 市内見どころを紹介「観光情報コーナー」③ 7月稼働予定の「軽食コーナー」



匠瑛のPRに クールビズウェア 販売中

スーパーアロハシャツ・ポロシャツ

市商工会・市観光協会・市役所では、難読地名と言われる匠瑛市をPRするため、今年もクールビズウェアを作成しました。ウェアは、匠瑛の語源である「狭布佐」にちなみ、麻仕立ての「スーパーアロハ」(=上写真)と、ドライメッシュ素材の「ポロシャツ」の2種類です。

両方とも、そうさ観光物産センター匠瑛の里で販売しています。スーパーアロハ…8,830円(色:白、紺) ポロシャツ…2,550円(色:紺、ピンク)



観光企画を担う

大関 典夫 さん

新しいものをみんなで作りたい

「観光と物産が相乗関係になる場所を作りたい」とNPO法人への参加を決めた大関さん。観光誘致・イベント企画部に所属し、「匠瑛の里を中心に市内の寺社仏閣を一巡する通年型のコースを企画中。八日市場にちなみ八つの神社を回る『八社参り』を皮切り

に、いずれは市全体の観光コース整備に取り組みたい」とのことで、「既成概念にとらわれず新しいものをみんなで作り上げたい」と話してくれました。八社参りは、9月ごろから実施予定です。

手作りの品を皆さん味わって

農家の主婦たちで作る加工直売団体の代表を務める大木さんは、匠瑛産の米粉を主原料としたシフォンケーキやプリンなどの手作りを、匠瑛の里に出品。「これまでは、家業との兼ね合いで週に2回、市内外の直売施設などに納めていましたが、匠瑛の里

へは、商品を切らさないように毎日頑張って納めています。商品は農家のおばちゃん手作り。添加物なしで、安心して食べられます」と太鼓判。「地元産の食材で作ったお菓子を皆さんぜひ味わって」と物産販売から匠瑛の魅力を伝えてくれています。



自慢の米粉製品を出品
大木 節子 さん